19　済生学舎の後身 日本医学校（現在の日本医科大学）校長 山根正次の再評価

殿﨑　正明，山本　　鼎
日本医科大学医史学研究会

山根正次（以下山根）は安政4年12月23日現在の山口県萩市に眼科医山根孝中の次男として出生，明治7年長崎医学校に入学したが当時の校長長谷川泰の計らいで東京医学校に編入，同15年4月，東大医学部を卒業，同年12月長崎医学校1等教諭に任命され，同18年～19年にかけての同地方でのコレラ大流行時には検疫委員として活躍し，流行の原因が水源にあるとして上下水道の設置を願い出る．また同19年長崎での清国水兵の暴行事件から「裁判医学」の必要性を長州人の山田顕義司法大臣に説く．同20年8月長崎医学校を辞任し司法省に出仕するが法医学・衛生学研究の為渡欧，同24年11月帰国後は明治29年内務省から警察医長，医務局長に任命され，同35年迄11年間日本及び東京市の医事衛生に尽力した．同35年8月山口県から衆議院議員となり政治家として活躍し，以後6回当選している．性格は温厚篤実，清廉かつ郷党後進の指導に懇切であったと伝えられている．後に日本医学専門学校の学校騒動時校是「克己殉公」の制定を行って学校の再建を行い，日本医科大学の初代学長，第3代学長となる中原徳太郎および塩田広重の学生時代に山根は保証人となっている．

日本医学校創立者である山根は今日の日本医科大学の基礎を作った．済生学舎の廃校で行き場を失った学生達の救済の為，済生学舎と縁のある日本医事週報社主の川上元治郎は長州閥の山県有朋の部下で国会議員である山根に懇請して明治37年4月に日本医学校を創立させ，山根は初代校長として15年も在籍した．明治43年3月31日同郷の二代目韓国総督の曽称荒助の懇願により，総督府衛生顧問につき，各地の医院の開設，整備，後の京城帝大医学部の創設，看護婦，助産婦の養成等医学教育の振興をはかり，衛生施設の改善に尽くし，また同44年3月満州でのペスト大流行に際しては北里柴三郎らと協力して朝鮮半島侵入阻止等大きな功績をあげ，日本医学校長との兼任生活は大正2年4月まで5年間続いた．

衆議院議員としては明治36年「慢性及急性伝染病予防ニ関スル質問書」や明治38年ハンセン病の予防を一般法の中に含める「伝染病予防法中改正法律案」，明治39年「癩予防法案」等を提出し，明治40年の法律第11号「癩予防ニ関スル法律」に繋げ，その後の同法律改正に影響を与えた大正5年に設立された内務省保健衛生調査会第4部会の主査も務めている．

山根は学校騒動の後大正7年4月日本医学専門学校校長を辞し，中原徳太郎を校長に推薦する．大正9年衆議院議員選挙に落選し，東京府駒込の「特許消毒株式会社」の社長を務め，大正14年脳卒中に罹り，8月29日永眠する．その際，新聞に追悼記事は一切書かれていない．

山根は，政治家，医学校長，朝鮮総督府の衛生顧問として多くの役割を果したために日本医学校校長から日本医学専門学校校長時代に学校経営が疎かになり，日本医科大学の校史には山根についての記述が僅かにしか存在しない．日本医学校の事務長として山根を支えていた同郷の磯部検三が昭和9年，自らが私立日本医学校の設立者であると名乗り出て実権を握り，校史が歪められて記述されてきた．

結果的に山根は様々な社会的な業績を残しているにもかかわらず今日まで不当に過小評価されてきた点について明らかにする．